

石橋議員（自民議連）

令和2年6月24日  
知事答弁実録  
（教育委員会）

（問）「教育に関する大綱」の策定について

県のこれからの教育において、是正指導に係るこれまでの歴史や背景を踏まえ、次期「教育に関する大綱」の策定にあたっての、知事の思いを伺う。

（答）

グローバル化が急速に進展して、人、モノ、資本、情報や様々な文化、また価値観が国境を越えて流動化する社会におきましては、グローバルな視野を持ちつつ、自己をしっかりと確立することが重要であり、日本人としては、これまで以上に日本人としてのアイデンティティを持ち、日本の歴史や文化について語るができるようになることが重要であると認識しております。

次期「教育に関する大綱」におきましても、現「大綱」と同様に、これまでの本県教育の歴史的経緯、現状や課題を踏まえた上で、引き続き、我が国や郷土の伝統、文化について理解を深め、広島への深い愛着や広島で学んだことへの誇りを持った人材を育成していく必要があると考えております。

改めて申すまでもございませんが、「人づくり」は、全ての基盤であり、中でも、「教育」が担う役割は、非常に大きいものがございます。

私といたしましては、総合教育会議において教育委員会と十分に議論を重ねながら、次期「大綱」の策定を進め、広島で学んで良かったと思える、さらには、全国から広島で学んでみたいと思われる日本一の教育県を実現してまいりたいと考えております。